

令和6年 **1**月の大阪**森林**便り



1月の木の話 **集成材の特徴**

- *集成材は、ひき板や小角材等を材料として、その繊維方向を平行にそろえて厚さ、幅、長さの方向に集成接着した木質材料です。
- *断面の小さいひき板（ラミナ）の段階で十分に乾燥（含水率15%以下）させるため、無垢材に比べて膨張・収縮などによる狂いや割れが少なく、寸法安定性に優れています。
- *ばらつきのある複数の木材を積層することにより、個々の欠点が平均化されるので、強度の安定性が高くなります。
- *幅・厚み・長さ方向それぞれ自由に接着調整することができるため、小径木材や端材を有効活用できます。
- *集成材の規格は日本農林規格（JAS）により定められており、大きく構造用集成材と造作用集成材に分類されます。
- *集成材は繊維方向に強い木材の特性をより強調した材料です。
(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)



国産針葉樹合板5%下落 **流通価格** **木造住宅向け低迷**

- *国産針葉樹合板の東京地区の流通価格は、11月に比べ5%安。
- 木造住宅の新規着工戸数は10月に、前年同月比5.4%減少。
- *1年以上のマイナスが続いています。
- *主要メーカーは8~9割程度抑えた生産をしています。
- *今後も値下がりが続くという見方。
(2023年12月5日 日本経済新聞記事より抜粋)



再利用木材、色あせ感脚光 汚れも個性、リノベで需要

- *住宅や工事現場などで使われていた古い材木「古材」の取引価格が上がっています。
 - *「内装は新しいものがよい」とする消費者の美意識の緩やかな変化がにじみま
 - す。
 - *古材は、住宅の解体現場や工事現場などで発生する廃材が原料。
 - *工事現場などの足場に使っていた「足場板」のネットオークションの平均落札価格は、2023年1～10月の平均で30,796円。2018年に比べ7割上がりました。
 - *古材を商品として扱う企業は、2021年度で175社。2015年度の5倍。
 - *各社の合計販売額は2021年度に約1億6000万円。2015年度は約100万円。
 - *新品が対象の製材業出荷額は約6300億円。
 - *専門の職人が磨きなどの加工を施した古材を「古木」と呼びます。
- (2023年11月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

